

ちがい

1. セミの抜け殻比較

打吹山では、6月末のニイニイゼミから始まり、8月もツクツクボウシに続く後半のミンミンゼミの羽化で終わりとなります。セミの羽化殻で目につくのはアブラゼミのものがほとんどですが、その気になって注意すれば他のセミも見えてきます。

生息場所は種によって違います。ヒグラシは薄暗い林内ですが、上述の4種は明るい林が生息地です。明るい林でも、幼虫の生息条件が違うため羽化場所が異なります。土壌水分量の好みからニイニイゼミはアブラゼミより湿った場所で羽化しています。



アブラゼミ



ミンミンゼミ

また、羽化までの行動も種により違います。ヒグラシは林内の小低木の小枝で羽化しますが、アブラゼミは高木を登り枝先、葉の末端まで行って羽化します。5~6m以上登っている個体もあります。ミンミンゼミは高く上がらないため幹に多く、ニイニイゼミは幹の地上30cmくらいです。アブラゼミは、末端まで行くためか、同じ場所に多数集まり、抜け殻の上に乗っているものもよく見かけます。

体長は、アブラゼミ=ミンミンゼミ>ヒグラシ>ツクツクボウシ>ニイニイゼミですが、ツクツクボウシはスマートでニイニイゼミはずんぐりと体型の差もあります。泥がついていればニイニイゼミです。

大きさや色による識別が難しいのはアブラゼミとミンミンゼミで、触角の違いで見るのが確実な分け方です。



ヒグラシ



ツクツクボウシ



ニイニイゼミ

2. ヤブミョウガ

ミョウガとつきますが、全く別物です。ミョウガはショウガの、ヤブミョウガはツクサの仲間なのですが、葉が似ていることから付けられた名前であることがよくわかる姿です。ミョウガのように香りもありません。毒もないのですが、昆虫等に食べられることがないようです。秋の青紫色の液果もよく残っています。

5月に地下茎から発芽すると、どんどん丈を伸ばし、大きいものでは1m近くにもなります。7月になると先端から花序を伸ばし下側から開花していきます。花には雌しべが飛び出し雄しべもある両性花と雄しべだけの雄性花があります。上方に大きい葉を四方に広げていますから弱い光をたくさん集める形です。小型のものは茶花に使われたりしますが、水揚げがよくありません。



液果

土壌水分の多い谷筋や樹下が生育適地ですので、相撲場上や長谷寺西口の谷に大きな群落があります。出水で地下茎や種子が流されて分布を広げた場所もありますが、実をたくさん付けますので、鳥に運搬された種子による生育地の出現もみられます。地下茎によってよく増えますので群生地が出現します。しかし、旺盛な生育を見せている夏期に地上部を刈り取られると絶えることからこの時期地下茎にはあまり栄養を蓄えていないと思われます。



花